

紙芝居名	マー君いいところあるじゃん
対象学年	小学校3・4年
対象教科	道徳、総合学習
紙芝居概要	嫌われもののマー君が、巣から落ちたつばめのヒナを拾います。それを見ていた一郎君は、マー君のやさしい一面に気づき、今までの見方を変えていきます。 一郎君らの心情変化を通し、友人を尊重し合う心を学んでいく姿を描いています。
学習の目的	だれでもよい面、悪い面を持っていることに気づき、お互いに尊重し合う心を育む。 さらに、生命を大切にすることを醸成する。

	学習活動	ポイント・備考
導入 15分	◆紙芝居(8分)を見た後 ○紙芝居に出てきた登場人物をあげさせる。 マー君、一郎君、さっちゃん、クラスのお友だち、 (つばめのヒナ)	◆紙芝居の内容を理解できたかどうか確認しながら進める。
展開 20分	(1) マー君のいいところはどんなところでしょうか。 ・つばめのヒナを拾い、水を飲ませようと必死になっている。 ・ヒナのお墓をつくってあげる。 ・つばめの巣を心配している。 ・ヒナのお墓にお花を飾る。 ○ヒナがぐったりして回復しない時のマー君の気持ちは? ○マー君は、ヒナのことを、友だちに相談できなかったのは、どうしてでしょうか? ○一郎君に声をかけられたときのマー君の気持ちは?  (2) 一郎君やサっちゃんは、マー君のことをどう思っているでしょうか(二人の心情変化を読み取る)。 マー君を嫌っている→一郎君は、ヒナと接しているマー君を見て、生命を大事にするマー君のやさしさを感じる →「マー君いいところあるじゃん」とマー君のよさを認める →マー君に近づき、思い切って声をかける ○一郎君が、「マー君いいところあるじゃん」と感じたきっかけはなんですか? ○マー君に声をかける一郎君の気持ちは? ○サっちゃんの気持ちは、どのように変化しましたか? また、どうして変化したのでしょうか?	◆嫌われもののマー君と、かかわらないようにしているクラスの友だち→いじめの心のもとになる可能性もある。  ◆つばめのヒナの世話をするマー君の姿 →やさしい面を持っていることに気づく一郎君。  ◆マー君のやさしさに気づいた一郎君は、思いきって話しかける→マー君は驚くも、つばめの巣を指さす  ◆動物も人間も生命をもち、時と共に成長、そしてつながっていることに気づかせる→生命の連鎖 ○犬やネコ、鳥などのお世話をしたことがあるか →命を大切にすることを育む  ◆それぞれ良い面がある、お互いに認め合い、友だちを大切にする心を育む →お互いに尊重し、いつしみあう心の醸成 →いじめ防止  ◆お互いに認めあう心が生まれていく心情変化の過程を読み取る。
まとめ 10分	(3) この紙芝居のお話を見聞きして、どのようなことを感じましたか。	○つばめのヒナを、どうしたら良かったと思いますか? ◆鳥(のヒナ)には絶対に触らないように指導し、このような場合は先生に連絡することを徹底させる。
その他	○良いところ(悪いところ) みつけっこゲーム 各場面における登場人物の行動(マー君、さっちゃん、一郎君)を確認し、その子の良いところ(悪いところ)を探し出す。	○自分のいい点、悪い点をあげさせる →だれにでも、長所・短所があることに気づかせる。

